

出席：小佐野・山中・石川・小西・三角・松村・高橋・神野・池田・堀之内

1. 夏季大学の報告

関西支部ニュース第 250 号に夏季大学の報告が掲載されている。

夏季大学の詳細な収支決算とその承認は次回総会とする。席上では、概算収支の報告である。現時点では収入が¥260,000 程度、支出が¥230,000 程度の見込み。収入については、津村書店引き受け分のテキスト売上額などの増額要素がある。支出については、昨年度に比べ講師原稿料と旅費・宿泊費が低額に抑えられたが、会場費がやや高額となった。

2. メールアドレスの集約とメーリングリスト

来年度支部ニュース電子化告知に必要なメーリングリストを開設した。メールアドレス集約状況は半分強であり、残りはまだ集約していない。年度末に向けて、気象台関係・大学関係を中心に集中的に集約する必要がある。

管理が電子化されてきている動きは全国的であり、新入会員を中心としたアドレス獲得について、本部から支部への連絡システムを確立する必要がある。在近畿の本部理事に連絡を取って、次回本部理事会での討議内容としてもらうよう働きかける。

3. 2005 秋季大会関連（2005 秋季大会第 3 回実行委員会での検討項目を含む）

常任理事会後に開催される 2005 秋季大会第 3 回実行委員会での討議資料の検討を行った。

これまでの経過報告と秋季大会プログラム紹介がされた。

シンポジウム冊子は白黒の予定であったが、原稿作成者からの申し出により一部ページの多色刷りの可能性について検討された。シンポジウム冊子の多色刷りは見栄えも良いが、1000 部程度の印刷であり経費面でかさむ。申し出者からのカラーページ差し込み・賛助金の活用等を担当者を中心に検討することとした。シンポジウム冊子原稿締切は 10 月末予定とする。

賛助金支出機関は少数だが、無理の無い範囲で担当者から早急に確認をする。

大会経費は、一部支出費用の低額化もあり、当初支出予算より低額になる。赤字決算にはならない見込み。

大会の任務分担は、負担が重くならないよう図る必要がある。アルバイトは、大学教官実行委員経由で大学生を中心に召集する。

事務局と実行委員長の現地見学を事前に行う。第 4 回実効委員会は、大会初日前日の 11 月 19 日午後秋季大会会場（神戸大学）で行う予定。

4. その他

- ・次回の関西支部ニュースは、2006 年 3 月ごろの予定。
- ・中国地区例会特別講演に気象研究所からの招聘で、経費は支部から支出可能。今年度は遠方からの招聘は 3 つの地区例会で一件だけであるためである。

